

第17回（平成26年度）椿講習会 報告

事務局 小泉不二男

台風接近による曇天で連日の猛暑がやわらいだ8月9日（土）の午後2時から1時間半の予定で龍ヶ崎市の「どらすて」を会場に今年で17回目となる椿講習会が開催されました。

参加者は一般参加11名、会員14名の計25名でした。

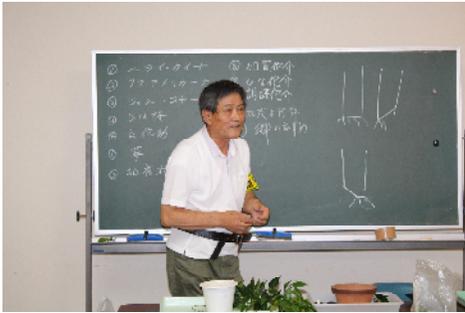
開会1時間前から集まった役員の方々が、会場設営と配布用穂木の袋詰め作業などの準備を例年にならって手際よく進めていきました。今回の穂木は、染谷治正さんが多数の品種を提供され、仕事で遅れるとのことで前日に植竹さんが守谷の椿畑まで取り入ってくれたもの。また講師の塩畑彰夫さんもたくさんの「有楽」の枝を、また染谷彰さんからは加茂本阿弥が持ち込まれました。さらに野口宣二さんからは竜ヶ崎市の貴重な椿「郷のむすめ」の提供もありました。私も午前中に椿畑で採取したワビスケを数種出しました。

以下は配布穂木のリストです。役員が葉に番号を書き、袋に入れて配布しました。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 ニライ・カナイ | 8 加賀ワビスケ |
| 2 タマ・アメリカーナ | 9 雛ワビスケ |
| 3 ジェシー・コナー | 10 胡蝶ワビスケ |
| 4 雛桜 | 11 加茂本阿弥 |
| 5 白ワビスケ | 12 郷のむすめ |
| 6 夢 | |
| 7 孔雀椿 | |

一般参加の方では遠く古河市からの方もいて、開会前に雑談していると「五色椿を持っているが挿し木を何度も失敗しているのでこの講習会に来た」とのこと。いつ挿しているかとお聞きすると「花の時期」とおっしゃる。夏に挿すと成功しますよ、などと話しているうちに、参加者の皆さんが次々とお見えになる。受付をしながら開催案内をどのようにして知ったかがうに、今回もこれまでの催事同様に常陽リビングで案内記事を見た、という方が多いようでした。

講演はまず塩畑さんが「挿し木の方法」について、実際の枝を使って穂木の取り方、次に持参した赤玉土を使って「挿し床」の作り方、さらに挿し方と初心者にも分かりやすく説明された。実物展示した昨年挿して今年枝を伸ばした青々とした苗を実際に見て参加者もやる気が出たようでした。質疑応答もあって和気あいあいと進行しました。塩畑さんは今回が初めての講演でしたが、実際に即して分かりやすいと好評でした。



講師：塩畑彰夫さん



講師：中山徹さん

次に中山徹さんが挿し木2年目以降の育て方を説明されました。一般参加者の中でお二人の方からが昨年も参加し挿し木に成功しているのので今後どのように管理すればよいかとの問い合わせもありました。鉢上げの時期、肥料、根切りと葉刈りなどを自作の椿盆栽を使って納得されるまで説明されました。説明に使った椿盆栽の見事な枝振りと黒光りのする葉の色に感嘆の声が上がっていました。

講演後、参加者全員に配布した挿し木3年生の寿ワビスケについて資料を使って説明しました。

《資料より》

無料配布苗

寿侘介（ことぶきワビスケ）

：東京都大島在住の椿研究家尾川武雄氏作出の侘介の新品種

古くからの侘介が「有楽」の実生から発生したとの仮説をあげて桐野秋豊先生と共同研究し、氏は大島公園の「有楽」を実生して新侘介を生み出し仮説を実証した。氏が作出した新侘介シリーズの最高傑作の1つという。色合いの愛らしさと華やかさ、そして何より12月から

寒中まで霜に負けず多くの花を咲かせ続けるところが魅力。



会終了後、昨年同様に会員育成苗の販売を行いました。今回は、私が提供することになり、主に挿し木3年生苗を300円で販売しました。品種は、稲敷市で発見された「飯出早咲き藪椿」、会員岡田（ ）さん所有で失われた一筋なのか検証中の「(岡田)一筋」(仮称)、寿ワビスケと同じく尾川さん作出の「染筆」、椿展で人気の「孔雀椿」と野口慎一氏作出の「白孔雀」、肥後椿「幸楽」、春風、三平椿です。会員には1本サービスで配布し喜ばれました。育てた甲斐がありました。それぞれの会員のもとで美しく咲いてくれるかと想像するだけで楽しくなります。売り上げは14本あり、会の会計に組み入れました。



飯出早咲き藪椿



(岡田)一筋

会場片付け終了後、同所で参加会員14名で反省を兼ねた茶話会を開きました。お茶はもちろん、スイカを食べたりお菓子をいただきながら椿談義や雑談に花を咲かせたあと散会しました。